

菖蒲は、香りが強く、その香りが邪気をはらう意味があります。菖蒲は次第に武家社会において「尚武」に通ずることから尊



紙製の武者人形
(下軽部個人蔵 昭和21年製)

節供は、節日（季節の変わり目などに神祭を行なう日）の供物から日本で造語されたものと考えられています。端午の節供は、現在も健やかな子供たちの成長を祝う日として全国各地で行なわれていますが、その歴史は古く古代中国にさかのぼります。この日は、悪日として、災厄や悪魔をはらうための行事が行なわれる日で、古代中国の風習が奈良時代に日本に伝わったとされます。行事では、天皇に「粽」が献じられ、群臣は菖蒲が付いた冠をかぶる習わしがありました。

ばれ、行事自体も江戸時代には幟や鎧兜、武者人形などを飾る男子の節供となっていました。かすみがつら市では、軒先に菖蒲・よもぎ・杉の葉などを下げ、魔よけとします。また菖蒲湯に入ることで邪気よけをしたり、菖蒲ではちまきをして頭痛よけなどをしました。初節供の家では、柏饅頭をつくり、祝宴を催し、近親者や組内の人たちを招きます。そのほか、特色あるこの日の行事としては、下志筑と中志筑、そして安食と下軽部で石合戦をしたそうです。

端午の節供 5月5日



ふるさとの年中行事

文芸ひろば

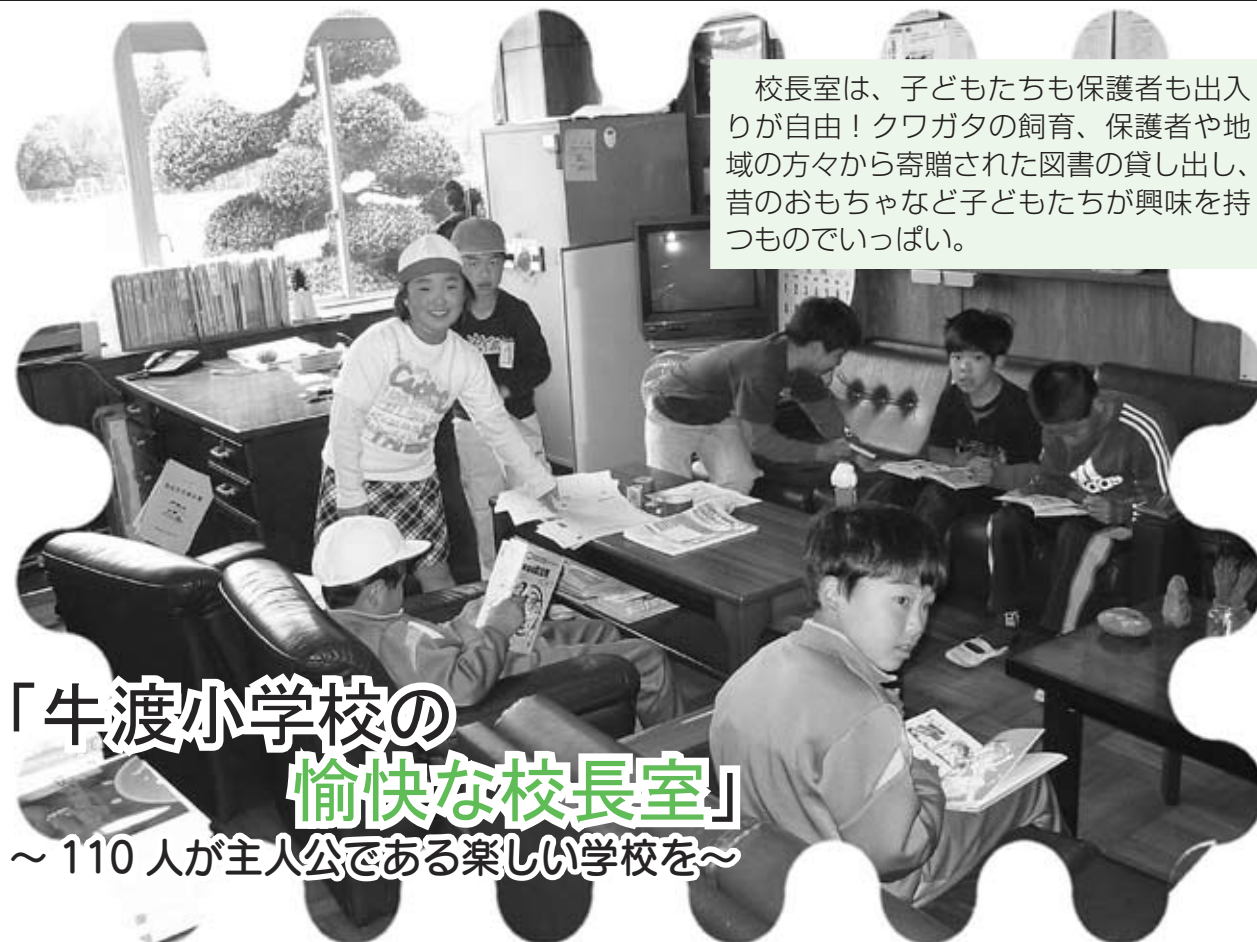
俳句

新緑を池に映して鯉群るる
流鏑馬の由来碑凛々し風光る
三の矢場へまっすぐ抜けて初夏の風
雲流れ八十八夜の月丸し
一つだけ風に乗れないシャボン玉
花は葉に出来て嬉しい尻上がり
ふるさとの主峯映して代田澄む
藤咲けり思い出深きありし父母

短歌

たどたどしく取り札を読む五歳児の眼輝く百人一首とる宵
綿入れの昔模様の懐かしく夢沁みており母居らねども
病床に花挿す嫁の真心に家族の絆更に深くす
雑草を抜きおきたれば現れし水仙の芽の青色美わし
玄関に曾孫の靴の加わりてほのぼのぬくし早春の朝
那須の湯が思ひ出されてなつかしく買ひ来し椿八重の花咲く
咲きしままここだく散りし紅椿を惜しみて卓上の大皿に活く
梨の花散れば幼果の生い出でて命は日々にかがやきを増す
落ち葉たく炎は風に抗いて音たてながらジャンプしている

中根美子(下土田)
野田美智子(稲吉東)
橋本とし(栗田)
畑百合子(上佐谷)
飯島ヒロエ(三ツ木)
鈴木春雄(戸崎)
小貫弘子(牛渡)
前嶋武(上土田)
川原場好子(上佐谷)



校長室は、子どもたちも保護者も出入りが自由！クワガタの飼育、保護者や地域の方々から寄贈された図書の貸し出し、昔のおもちゃなど子どもたちが興味を持つものでいっぱい。

「牛渡小学校の 愉快的校長室」 ～110人が主人公である楽しい学校を～

七時三十分、校門では、子どもたちの登校が始まっています。
「おはようー」「おはようございませう！」元氣なあいさつ、学校が楽しくって、というような表情で教室へ一目散に走っていきます。
本校では、子どもたちにとって「明日が待たれる学校」でありたいとの思いから、居心地がよく、充実感（自己実現）がもてる学校づくりを推進しています。キーワードは、学校の主人公は百人の子どもたちです。
牛渡小学校では、平成十六年度から、児童や保護者の校長室の出入りを自由に。校長室のドアを開いたただけですが、毎日子どもたちの元氣な声が飛び交い、学校の雰囲気は開放前とは一変しました。

■夢をもてる子どもに！

校長室の壁面に掲示してある児童一人一人の顔写真の下に「野球の選手になりたい」「心の優しい大人になりたい」「外国へ行って活躍したい」など、何十年後の自分の夢を思い思いに書いてあります。
夢は人生の可能性です。子どもたちが校長室で自分の夢を確認しチャレンジしていくエネルギーには驚かされます。

■褒めて・伸ばす！

「学習意欲賞」、あなたは授業で学んだことを深く追究し…という内容の賞状です。授業で学習したことをグループで学習し続けた児童への賞で、この他にも「思いやり賞」「あいさつ賞」「ボランティア賞」など多彩な賞です。この取り組みは、一年を経過し、保護者や地域の方々からの推薦も増えてきています。

一昨年度にスタートした縦割り班での「全校徒歩遠足」や年間を通して行なっている「野菜づくり」など、共に汗を流し、気付いたこと、感じたことをわかちあう機会を確保することにより、子どもたちは、深く考える力、思いやる心を高めています。併せて学力の向上にもつながっています。



全校徒歩遠足で湖岸を歩く児童